

<「知るっぱ！久留米」 令和4年3月31日(木) 12:30~放送分>

鳥類センターの魅力 ～第5回～ 「鳥類センターの今と未来」

<ゲスト：久留米市鳥類センター 高山しのぶさん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっぱ久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今回は、久留米市の人気スポット『鳥類センターの魅力』をテーマにお送りしています。

ゲストはこの方です。

ゲスト:高山さん(以下「高山」)

こんにちは!久留米市鳥類センターの高山しのぶです。

よろしくお願いします。

坂本 さて、いよいよシリーズの最終回となりました。

今回は『鳥類センターの今と未来』というテーマでお送りします。

コロナ禍で社会には大きな変化が訪れました。センターにも変化がありましたか?

高山 状況によって、休園をしなければならなくなったことが、非常に大きな変化ですね。

開園しても、様々な制限をせざるを得ない状況です。

園内でのモルモットやウサギとのふれ合いや、市内の保育園、幼稚園、小学校などを対象に実施していた移動動物園も中止しました。

子どもたちと動物たちがふれ合う貴重な機会が大幅に減ってしまい、大変残念です。

坂本 コロナ禍は、動物園にも大きな制限をもたらしたというわけですね。

残念ですが、致し方ないことなのでしょうね。

高山 それに加えて、ここ数年、高病原性鳥インフルエンザが国内で発生しています。

そうなると、餌やりを中止したり、ゲージに防疫ネットを張ったりする必要があるので、

動物たちの本来の姿が見づらくなってしまいます。

運営の立場としては、できることから少しずつ、再開できるように工夫と改善をしていきたいと思っています。

坂本 鳥さんたちのゲージの前に石灰をまいているのも、そういったことなんですかね。

人間も動物も、見えない敵と闘いながらセンター運営されているんですね。

鳥類センターでは、ほかにも大事な取り組みもあるんですね?

高山 県内で傷つき、保護された野鳥などを受け入れています。
鳥類センターは、福岡県指定の「傷病野生鳥獣保護医療所」に指定されているんです。
保護した野鳥は、できる限りの治療やケアを行い、自然に帰しています。
傷ついた野鳥は、それが致命傷となり、自然に返しても生活できないこともあって、
その場合は、園内で飼育・展示します。
ここで、皆さんにぜひお伝えしたことがあるのですが。

坂本 何か、大事な話のようですね。お願いします。

高山 野鳥のヒナを見つけたら、なるべく巣に戻すか、そのままにしておいてください。
ヒナは巣立ちの練習中であることが多く、近くで親鳥が見ていることがほとんどです。
かわいそうだからと保護してしまうと、親から引き離すことになります。
野良猫や車が心配な場合は、木の上などの安全な場所に置いてあげてください。

坂本 なるべく自然のままにしておく、という事ですね。

高山 人が近くにいると、親鳥は近づけないんですね。
なので、その場を離れて、遠くから見守って頂きたいと思います。
ヒナを保護して育てたとしても、何が「食べ物」で、何が「危険か」を教えることはできません。
ヒナは、生きていくために大切なことを親鳥から学ぶのです。

坂本 かわいいからといって、その場の感情に任せて連れて帰ってはダメですよと、
ヒナは親鳥と一緒に成長していくということなんですね。

高山 実際に、鳥たちが繁殖する季節である5月から10月頃に、野鳥のヒナを鳥類センターへ持ち込まれることが非常に多いので、この場を借りてお伝えさせていただきました。
ぜひ、ご理解、ご協力をお願いしたいと思います！

坂本 リスナーの皆さんも、ぜひご理解ください。
高山さん、この際ですから、他にもお伝えしたいことがあれば、どんどんお話しください。

高山 鳥類センターでは、サポーターの皆さんと共に歩んでいます。
1口1,000円からの寄付をしてくださるバードサポーターさんと、園内美化活動、飼育活動、
ガイド活動、イベント活動を行っていただくバードボランティアさんです。
いずれも随時募集しています。
寄付金は、鳥さんたちの餌代などの運営資金として活用させていただいています。
ボランティアについては、事前の研修なども行っています。
だから、「私にできるかな？」という心配はないので、まずはどんどんお声かけください。

坂本 動物が好きな方は、どんどんサポーターに参加してください。
さて、ここからは鳥類センターの未来を語っていきます。
久留米市はもとより、周辺の北筑後地区や佐賀東部地域で唯一の動物園でもある、
鳥類センターの展望をお聞かせください。

高山 「人と自然環境との共生」を目指して、先にもお伝えした基本理念に基づいて、飼育展示、
周辺施設との連携、学校教育との関わりを大切にしながら、
サポーターの皆さんと力を合わせて園を活性化し、サービスの向上に努めます。

坂本 話は変わりますが、今は SNS やライブ配信でもセンターを楽しめるそうですね？

高山 ツイッター、インスタグラム、ユーチューブで情報発信をしています。
ライブ配信は未経験ですが、今や SNS の時代です。
広報担当の私には慣れない SNS ですが、コロナ禍など、特に気軽に外に出ることができない
市民の皆さんの目となり足となり、日々学び、時に苦戦しながら情報発信を
充実させていけるよう頑張っていきたいと思います！

坂本 鳥さんたちのかわいい姿をいつでも見られるのは、とても嬉しいですね。
高山さん、5 回にわたって久留米市鳥類センターの楽しいお話をありがとうございました。
お聞きの皆さんも、ぜひ鳥類センターにお出かけください。